



支 出 調 書

支出番号	第 33 号	会派代表者	経理責任者
令和 元年 11月 22日 起票			
支出科目	資料作成費		
支出額	¥6,588 —		
支出内容	平成31年4月1日～令和元年9月30日までのコピー使用料		
支出先	議会事務局		
領収書等貼付欄			

領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。

請 求 書

おおいた民主クラブ 殿

¥ 0.- (カラー 0枚)

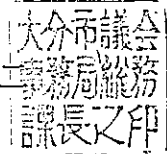
¥ 6,588.- (白黒 2,558枚)

¥ 6,588.-

但し、平成31年 4月 1日から令和元年 9月30日までのコピー使用料

令和元年11月22日

議会事務局
総務課長 村上 雄二



領 収 書

おおいた民主クラブ 殿

¥ 0.- (カラー 0枚)

¥ 6,588.- (白黒 2,558枚)

¥ 6,588.-



但し、平成31年 4月 1日から令和元年 9月30日までのコピー使用料




令和 1 年 11 月 22 日

議会事務局
総務課長 村上 雄二



旅費精算兼旅行命令変更書

支出番号	第 34 号	会派代表者	経理責任者
令和 元年 11月 26日 起票			
支出科目	研究研修費		
支出額	0 -		

1 出張者内訳	出張者氏名	旅 費 金 額			精算印
		精算前	精算後	差 額	
1	井手口 良一	90,000	90,000	0	
2	堀 嘉徳	90,000	90,000	0	
3	松本 充浩	90,000	90,000	0	
4					
5					
2 用務先	高知市 (10月30日 12:00~19:00)				
	(10月31日 8:30~12:00)				
3 出張期間	令和 元年 10月 29日から 10月 31日ま(2泊 3日)				
4 旅 費	概算額	270,000	円		
	精算額	270,000	円		
	差 額	0	円		
5 用務内容	第14回全国市議会議長会研究フォーラム				
6 特記事項 (変更理由)	出張命令書兼支出調書 支出番号 第 28 号				

令和 1年 9月 6日

総務課長 殿

会派名 おおいた民主クラブ

氏名 井手口 良一



旅 費 (変 更) 計 算 依 頼 書

下記のとおり調査研究活動のため出張いたしますので旅費計算をお願いいたします。

記

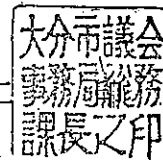
日 程	令和1年10月29日 ~ 令和1年10月31日
出張者	井手口良一 堀嘉徳 松本充浩
用務地	高知市 (10月30日 12:00~19:00) (10月31日 8:30~12:00)
用務内容	第14回全国市議会議長会研究フォーラム

旅 費 計 算 書

経 路	10月29日 大分-小倉-岡山-高知 10月30日 — 10月31日 高知-岡山-小倉-大分												
旅費内訳	<table border="0"> <tr><td>交通費</td><td>50,100</td><td>円</td></tr> <tr><td>宿泊料</td><td>30,000</td><td>円</td></tr> <tr><td>日 当</td><td>9,900</td><td>円</td></tr> <tr><td>計</td><td>90,000</td><td>円</td></tr> </table>	交通費	50,100	円	宿泊料	30,000	円	日 当	9,900	円	計	90,000	円
交通費	50,100	円											
宿泊料	30,000	円											
日 当	9,900	円											
計	90,000	円											

上記のとおり通知いたします。

令和 1年 9月 10日
総務課長 村上 雄二



		日当	宿泊	乗換案内の 交 通 費
10/29	大分市→高知市	3,300	15,000	25,050
10/30	—	3,300	15,000	—
10/31	高知市→大分市	3,300	—	25,050
		9,900	30,000	50,100

一人当たり旅費合計	90,000
-----------	--------

※30日12時からの用務に間に合わないため、前泊とする。
 ※大分～高知間については往復切符を購入する。

大分 ~ 高知 2019年10月29日(火) 12時10分 発 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離	
		6時間 38分	(割引)24,500円	687.0km	25050円
		7時間 33分	(割引)24,380円	687.0km	
		21時間 29分	(割引)19,180円		

経路 No.1

		2019/10/29	運賃	料金	距離
大分	12:10		9730円		
	ソニック28号	↓	割引9550円	2800円グリーン席	132.9km
小倉	13:37			2850	
	13:53				
	のぞみ34号	↓		8410円グリーン席	374.8km
岡山	15:19			8570	
	16:05				
	南風17号	↓		3830円グリーン席	179.3km
高知	18:48			3900	

高知 ~ 大分 2019年10月31日(木) 15時0分 発 大分(取付込み)

経路	評価	時間	費用	距離
		6時間 32分	(割引)24,380円	687.0km
		5時間 49分	(割引)24,590円	687.0km
		16時間 58分	(割引)21,580円	687.0km
		16時間 58分	(割引)21,790円	687.0km
		17時間 1分	(割引)19,180円	

25050円

経路 No.2

2019/10/31		運賃	料金	距離
高知	発 15:13	9730円		
特 南風20号	↓	割引9550円	3830円グリーン席	179.3km
岡山	着 17:41		3900	
	発 17:51 乗換10分			
新 のぞみ41号	↓		8410円グリーン席	374.8km
小倉	着 19:17		8570	
	発 19:41 乗換24分			
特 ソニック49号	↓		2800円グリーン席	132.9km
大分	着 21:02		2850	

出張報告書

令和元年11月26日

会派代表者 殿

令和元年10月29日から10月31日まで出張しましたので下記のとおり報告します。

会派名
報告者

おおいた民主クラブ
井手口良一



1. 出張先 高知県高知市布師田3992-2
高知ちばさんセンター
2. 用務 第14回全国市議会議長会研究フォーラムへの参加
3. 出張者氏名 井手口良一 堀 嘉徳 松本充浩
4. 研修調査等の内容
 - 4-1. 令和元年10月30日(水曜日)午前12時~17時
 - ① 主催者挨拶 全国市議会議長会会長(大分市議会議長)野尻哲雄氏
高知市議会議長 田鍋 剛氏
高知市長 岡崎誠也氏
 - ② 基調講演 演題:「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」
講師:東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授 中島岳志氏
 - ③ パネルディスカッション
演題:「議会活性化のための船中八策」
コーディネーター:朝日新聞論説委員 坪井ゆづる氏
パネリスト:市町村職員中央研修所学長 高部正男氏
株式会社コラボ代表取締役 横田響子氏
高松丸亀町商店街振興組合理事長 古川康造氏
高知市議会議長 田鍋 剛氏
 - 4-2. 令和元年10月31日(木曜日)午前9時~11:30時分
 - ① 課題討議 「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター： 朝日新聞論説委員 坪井ゆづる氏
事例報告者：上越市市議会議員 滝沢一成氏
鎌倉市議会議員 久坂くにえ氏
周南市市議会議員 小林雄二氏

② 閉会式 次期開催市議会議員挨拶

5. 添付資料(別紙)

- ①開催の案内
- ②資料集
- ③参加者名簿

6. 所感

① 基調講演

演題：「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」

講師：東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授 中島岳志氏

現代政治を座標軸に表し、近未来への可能性を現代政治のマトリクスとして解き明かすというユニークな手法は、初めて出会うものだったが、非常にわかりやすく、また近未来への期待感を感じさせる素晴らしい講演だった。

座標軸のX軸にリスク管理の考え方をとり、プラス側をリスクの社会化とし、セイフティネット強化型、大きな政府志向型とし、マイナス側をリスクの個人化すなわち自己責任要求型、小さな政府志向型としている。Y軸にはマイナス側にリベラル度を置き、プラス側にはパターンナル度を置いた。リベラルはヨーロッパが経験した30年戦争という新旧キリスト教の間で起きた苦い経験の中から出てきた「寛容」という言葉から生まれている。本来は寛容という意味の用語であったが、近年では自由主義と同義語である。

座標軸のプラス×プラス領域をI、そこから時計の反対周りにII、III、IVとしている。ちなみに現在の政権は第IVパターン、つまり父権主義志向が強く、自己責任要求型、小さな政府志向型としている。60年代から70年代の自民党は、リベラル勢力の台頭に対抗するため、保守本流ともいえる宏池会が主導する第IIパターンの政権だったとの分析をしていることに、意外性を感じたが安倍政権との比較の中で納得の行く説明だった。

政府の仕事とは内政面においては、大きく金(経済)と価値(社会保障)の二つに分けられるという主張も的を得ているといえる。

野党が現政権に対抗するならば基軸としてIIを選択して、国民の期待感を集約しなければならぬとの意見も、拝聴するに値する。野党の国会議員に聞かせたい。

その他「ラジカルデモクラシー」「新自由主義の台頭」「官から民へと市民生活支援がシフトすればするほど政治家の仕事が減っていく、政治のコミットする領域が小さくなる」「小選挙区はマジョリティー優先になり、少数意見が抹殺されやすい」「有権者が選挙離れしているのは主権者としての存在感が疎外感変わっている。放置すれば民主主義の崩壊につながりかねない危機」などの発言が耳に残った。

ラジカルデモクラシーとは政治への直接的な関わりを持つことを志向する新しいうねりであり、さらにパートナーとの平等な意見交換に基づく政策形成を志向する熟議デモクラシーと対抗軸を示してそれに対する戦いの姿勢をアピールしようとする闘議デモクラシーがあるが、いずれの場合も熱しやすく冷めやすい。旧民主勢力の失敗の間隙を埋める形で登場した山本太郎の「令和新撰組」は闘議デモクラシーに分類できる。

最後にリベラルと保守がタッグを組んだ時に日本の政治は大きく変わると期待するという言葉で講演を締めくくった。

② パネルディスカッション

演題：「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター：朝日新聞論説委員 坪井ゆづる氏

パネリスト：市町村職員中央研修所学長 高部正男氏

株式会社コラボボ代表取締役 横田響子氏

高松丸亀町商店街振興組合理事長 古川康造氏

高知市議会議長 田鍋 剛氏

このパネルディスカッションと次の課題討議については、コーディネーターの朝日新聞論説委員坪井氏が不勉強な上に地方議会に対するステロタイプで固定観念的な姿勢が会場からの反発も買っていたし、せっかくのコーディネーターや事例発表者の発言の魅力を減殺させてしまった。また、市町村職員中央研修所学長の高部氏は、事務次官まで務めた方の見識を期待したのだが、永年市議会議長会事務局長を務めたせいか、サーバント根性にまみれており、永年の自治省での経験に基づく高所大所からの未来を見据えた発言とはならなかったのがくれぐれも残念であった。

但し、都市内選挙区制度の検討、女性議員の割合確保のために議員の労働法制の見直すべき、議員休業性、兼業規制の再検討、公務員の立候補辞職制度の見直しについての発言は傾聴に値するものであった。

また、議会改革を推進するあまり政策立案機能が強調されすぎていることに批判的な見地から、「基本は行政監視機能ではないか」「議選の監査委員の重要性」「決算を否決された首長の対応に対する地方自治法改正の必要性」について言及があったことも傾聴に値すると感じた。

高知市議会議長田鍋氏からは地方自治法96条の活用について具体的な提案があった。コラボボ社長の横田氏も地方行政や議会に対しての見識不足が目立ったが、自治体コードで検索できる未来カルテを使った政策立案についての提案とテレビ会議システムの活用の検討についての提案はユニークだった。

高松丸亀市商店街振興会の古川氏は議員のなり手不足の背景には過剰な議員監視とリスpekトの欠如があると、地方議員に寄り添う発言があった。地方議会選挙に複数投票制を導入することの提案もあった。

③ 課題討議

演題「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター：朝日新聞論説委員 坪井ゆづる氏

事例報告者：上越市市議会議員 滝沢一成氏

鎌倉市議会議長 久坂くにえ氏
周南市市議会議長 小林雄二氏

コーディネーター 朝日新聞論説委員 坪井ゆづる氏

上越市議会議員の滝沢氏の事例発表は大いに参考になった。議員有志による「市議になりやすい環境づくり検討会」と市民意見区間会に相当する「ホワイトボードミーティング」の開催については大分市でも検討する価値があると感じた。

行政監視機能強化のための委員会審議のための資料が細かいことなどは大分市と同じだがHPで公開しているということは、資料作成の視点が変わり、より公開度が増す試みと思われる。市民意見交換会の相当する「市民の声」は年間12回開催されており、大分市と同程度だが、上越市の場合委員会ごとに関係諸団体との意見交換会を開催している。また、市民モニター500人からアンケートを、コアモニターと呼ぶ30人の市民からパブリックコメントを議会として実施している。

鎌倉市議会議長の久坂氏は女性議員の立場から、現職としての出産の経験に基づいて提言を行った。鎌倉市でも現職の出産に関する条例規定がなく会議欠席の事由、産前産後休暇、会議終了時間の明確化など、多様なバックグラウンドを持つことへの配慮の欠如について言及があり、現在、運動中であるとのことだった。

行政監視機能については予算原案に対する減額修正をしたことがあるとのことなので調査してみたい。

周南市議会議長の小林氏は自治体合併に伴う議員報酬、定数問題で市民から議会解散請求が出され、住民投票の結果を経て議会解散となり定数が半減した経験について事例発表した。

また、議会基本条例の制定後の形骸化と、かえって議会活動の足かせになっていることへの疑問を呈した。

行政監視機能については所管事務調査の徹底を図るとともに、指定管理者委託対象施設73施設については、複数常任委員会が合同で調査に基づく審査をしているとのこと。その内訳は企画総務所管が37施設、教育福祉所管が21、環境建設所管が14となっているとのことだが、どの施設がどの委員会の合同審査になっているかという具体的な事例は発表されなかった。

事例発表のまとめとしてコーディネーターから

- ①行政監視機能の向上（栗山町議会基本条例第6条）
- ②次世代を見据えた議論、政策立案（未来カルテ）
- ③データに基づく議論
- ④多様性の確保（女性・若者議員割合の拡大）
- ⑤96条一項二項
- ⑥労働法制の検討
- ⑦情報公開の徹底

の7項目が挙げられた。

この20年、地方議会是有権者の関心を高めてもらうため、それぞれの地域の事情や特性の中で工夫し努力してきた。20年前の地方議会と現在の議会は全く違うと言っても過

言ではない。それでも有権者の関心は高まらず、投票率が下げ止まらない傾向にある。それが一体、地方議員のせいだけであろうかという疑問が呈されたが、「30年前から始まった空白と停滞の時代を経て、国民・市民は経済的に疲弊し、生活に追われて政治に関心を持つところではないというのが実情ではないのか」という上越市の滝沢氏の問題提起を、朝日新聞論説委員坪井氏は「それも正論だが」という言葉で一蹴し、議会の閉鎖性や議員の情報発信の少なさにのみ焦点を当て続け、持論を展開しただけであった。

次年度以降のパネルディスカッションや事例報告のコーディネーターの人選に慎重を期すことを要望したい。

以上

出張報告書

令和元年11月26日

会派代表者 殿

令和元年10月29日から10月31日まで出張しましたので下記のとおり報告します。

会派名 おおいた民主クラブ
報告者 堀 嘉徳



1. 出張先 高知県高知市布師田3992-2
高知ちばさんセンター
2. 用務 第14回全国市議会議長会研究フォーラムへの参加
3. 出張者氏名 井手口良一 堀嘉徳 松本充浩
4. 研修調査等の内容
 - 4-1. 令和元年10月30日(水曜日) 午前12時~17時
 - ① 主催者挨拶 全国市議会議長会会長(大分市議会議長)野尻 哲雄氏
高知市議会議長 田鍋 剛氏
高知市長 岡崎 誠也氏
 - ② 基調講演 演題:「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」
講師:東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授
中島 岳志氏
 - ③ パネルディスカッション
演題:「議会活性化のための船中八策」
コーディネーター:朝日新聞論説委員 坪井 ゆづる氏
パネリスト:市町村職員中央研修所学長 高部 正男氏
株式会社コラボラボ代表取締役 横田 響子氏
高松丸亀町商店街振興組合理事長
古川 康造氏
高知市議会議長 田鍋 剛氏
 - 4-2. 令和元年10月31日(木曜日) 午前9時~11:30時分
 - ① 課題討議 「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター：朝日新聞論説委員 坪井 ゆづる氏
事例報告者：上越市議会議員 滝沢 一成氏
鎌倉市議会議長 久坂 くにえ氏
周南市議会議長 小林 雄二氏

② 閉会式 次期開催市議会議長挨拶

5. 添付資料(別紙)

- ①開催の案内
- ②資料集
- ③参加者名簿

6. 所感

① 基調講演

演題：「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」

講師：東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授 中島 岳志氏

現在の日本政治の状況、とりわけ各政党の政治的主張を財政面と価値観から分類する手法により解説。財政面では税をどのように使っていくか、リスクの個人化とリスクの社会化の縦軸を設け、価値観では、より多様性を寛容するリベラルと父権的価値観であるパターナルの横軸を設け各政党がどの位置に存在するかを教示していただいた。非常に合理的で、簡易に各政党の立ち位置を示されたので、わかりやすく納得のいく説明であった。

また、そもそも、リベラルという考え方の歴史的背景や、それと対峙するといわれている保守という概念の解説をおこなった。保守とは何かの解説の中で、大平正芳の「政治は60点でなければならない」という言葉と「改革とは永遠の微調整である」という言葉が心に響いた。自らの正義に拘泥し、他者の価値観に制限を加えていく現在の世界的な政治情勢を省みて、民主主義の中から独裁主義が生まれる素地がある事に危機感を感じるとともに、政治の在り方を改めて考えさせられる講演であった。

② パネルディスカッション

演題：「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター：朝日新聞論説委員 坪井 ゆづる氏

パネリスト：市町村職員中央研修所学長 高部 正男氏

株式会社コラボ代表取締役 横田 響子氏

高松丸亀町商店街振興組合理事長 古川 康造氏

高知市議会議長 田鍋 剛氏

まず、パネリストの方々から自己紹介があり、その後「議会活性化のための船中八策」と題して、それぞれの立場から議会改革や議会との係わりについて、スライドショーを交えての解説があった。

市町村職員中央研修所学長の高部正男氏からは、市議会についての現状認識や自治体議会を取り巻く現状の変化について、また、議会基本条例や今後の自治体議会の在り方などをお話いただいた。続いて、株式会社コラボ代表取締役の横田響子氏から、人口減を前提として、中長期的視点で街の目指す方向を議論すべきとの話や、多様な人材での議論の在り方等をご自身の経験をもとに話され、高松丸亀町商店街振興組合理事長の古川康造氏からは、高松丸亀町の再開発事業についての解説と地元議会や議員との係わりについて説明していただき、最後に高知市議会議長の田鍋剛氏から、高知市議会における議会改革について発表があった。

その後、コーディネーターである朝日新聞論説委員の坪井ゆづる氏の進行で、パネリストの方々の発表について質疑がなされたが、坪井氏があまり地方議会の現状について理解されてないように見受けられ、一昔前の悪しき地方議会をどう改革するかという論調であったのが残念であった。

現在においても地方議会の不祥事が報道されることが多々あるが、危機感を持ち真摯に議会改革を進め、さらに課題を検討している議会も多く、そうした観点からすると、それほど参考になるようなディスカッションではなかった。

ただ、横田氏の話の中で、自治体コードによる各地域の状況に関する将来推計データの作成事例を用いた未来カルテ作成については、データ推計を基にした各地域における今後取り組むべき重点的な課題の抽出が可能であり、興味深いものであった。

③ 課題討議

演題「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター：朝日新聞論説委員 坪井 ゆづる氏

事例報告者：上越市議会議員 滝沢 一成氏

鎌倉市議会議長 久坂 くにえ氏

周南市議会議長 小林 雄二氏

事例報告者の自己紹介の後、各議会における議会改革についての事例報告があった。

上越市議会議員の滝沢一成氏からは、市議を目指しやすい環境整備についての提言があり、上越市の取り組みについて報告がなされた。上越市議会では「市議を目指しやすい環境整備検討会」を設け、検討会の中で阻害要因の分析がなされており、大変参考になった。阻害要因として分類されたものは、やりがいや面白さを感じられない「心的要因」、選挙費用に関する不安や報酬や身分保障にかかわる「物理的要因」、また、地域や家族の理解といった「環境的要因」の三分類としており、それらの課題を5つの大項目と19の小項目で構成する提言として取りまとめ議長に提出し、さらに早急に取り組む課題として7項目を選出し、解決策の検討を行う等、意欲的に取り組みを進められており、その手法と実行力に感銘を受けた。

次に、鎌倉市議会議長の久坂くにえ氏から、ご自身の経験や、データを基にした地方議会における女性議員についての現状と課題があげられ、鎌倉市議会

検討された環境整備に向けた取り組みについて報告がなされた。

事例報告の最後は、周南市議会議長の小林雄二氏より、周南市議会の議会改革として議長交際費のHP公開をはじめとした情報公開の取り組みや、政治倫理条例をはじめとした条例改正、また、行政監視機能の充実についての取り組み等の報告がなされた。

その後、会場からの質疑があり、最後にコーディネーターの坪井氏からこれまでの議論のまとめとして、船中八策になぞらえ、行政監視機能の向上、次世代を考えた政策の作成、データに基づいた政策、女性や若者も参加した多様性のある議会、96条の活用、労働法を含めた国の制度変革、情報公開の徹底、合意形成を前提とした議員間討議の在り方の8項目の提案が取りまとめられ課題討議を終えた。

事例報告では、上越市議会の取り組みや、女性議員を取り巻く環境整備など、今後大分市でも取り組むべき課題もあり、非常に参考となった。しかし、コーディネーターの方が、現在の地方議会の議会改革について、あまり存じ上げてないようで、議論の深まりを感じなかったのが残念であった。

出張報告書

令和元年11月26日

会派代表者 殿

令和元年10月29日から10月31日まで出張しましたので下記のとおり報告します。

会派名 おおいた民主クラブ
報告者 松本 充浩



1. 出張先 高知県高知市布師田3992-2
高知ちばさんセンター
2. 用務 第14回全国市議会議長会研究フォーラムへの参加
3. 出張者氏名 井手口良一 堀 嘉徳 松本充浩
4. 研修調査等の内容
 - 4-1. 令和元年10月30日(水曜日)午前12時~17時
 - ① 主催者挨拶 全国市議会議長会会長(大分市議会議長)野尻哲雄氏
高知市議会議長 田鍋 剛氏
高知市長 岡崎誠也氏
 - ② 基調講演 演題:「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」
講師:東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授 中島岳志氏
 - ③ パネルディスカッション
演題:「議会活性化のための船中八策」
コーディネーター:朝日新聞論説委員 坪井ゆづる氏
パネリスト:市町村職員中央研修所学長 高部正男氏
株式会社コラボボ代表取締役 横田響子氏
高松丸亀町商店街振興組合理事長 古川康造氏
高知市議会議長 田鍋 剛氏
 - 4-2. 令和元年10月31日(木曜日)午前9時~11:30時分
 - ① 課題討議 「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター： 朝日新聞論説委員 坪井ゆづる氏
事例報告者： 上越市市議会議員 滝沢一成氏
鎌倉市議会議長 久坂くにえ氏
周南市市議会議長 小林雄二氏

② 閉会式 次期開催市議会議長挨拶

5. 添付資料(別紙)

- ①開催の案内
- ②資料集
- ③参加者名簿

6. 所感

① 基調講演

演題：「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」

講師：東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授 中島岳志氏

現代政治を座標軸に表し、近未来への可能性を現代政治のマトリクスとして解き明かすというユニークな手法は、初めて出会うものだったが、非常にわかりやすく、また近未来への期待感を感じさせる素晴らしい講演だった。

野党が現政権に対抗するならば基軸としてⅡを選択して、国民の期待感を集約しなければならぬとの意見も、拝聴するに値する。野党の国会議員に聞かせたい。

その他「ラジカルデモクラシー・」「新自由主義の台頭」「官から民へと市民生活支援がシフトすればするほど政治家の仕事が減っていく、政治のコミットする領域が小さくなる」「小選挙区はマジョリティー優先になり、少数意見が抹殺されやすい」「有権者が選挙離れしているのは主権者としての存在感が疎外感変わっている。放置すれば民主主義の崩壊につながりかねない危機」などの発言が耳に残った。

現在の政治状況を客観的にしかも的確に分析しているという点において私たち自身にもしっかりとそのことを受け止める必要があるし、そのことを基本に大分市議会の中にも反映させていくことが大切だと思った。

何と言っても、講師の中島先生の尊敬する政治家が「大平正芳」元総理大臣であることが意外であったのと同時に今回の講演内容の根底にある基本的な考え方が少しばかり理解できたような気がしたところである。

② パネルディスカッション

演題：「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター：朝日新聞論説委員 坪井ゆづる氏

パネリスト：市町村職員中央研修所学長 高部正男氏

株式会社コラボ代表取締役 横田響子氏

高松丸亀町商店街振興組合理事長 古川康造氏

高知市議会議長 田鍋 剛氏

このパネルディスカッションと次の課題討議については、コーディネーターの朝日新聞論説委員坪井氏が不勉強な上に地方議会に対するステロタイプで固定観念的な姿勢が会場からの反発も買っていたし、「船中八策」というテーマにあるように、具体策を八つ示さなければならぬということが前面に出すぎてしまって、現状の的確な把握と共通認識の面で多少なりとも無理があったような気がしてならない。

但し、都市内選挙区制度の検討、女性議員の割合確保のために議員の労働法制の見直すべき、議員休業性、兼業規制の再検討、公務員の立候補辞職制度の見直しについての発言は傾聴に値するものであった。

高知市議会議長田鍋氏からは地方自治法96条の活用について具体的な提案があった。コラボボ社長の横田氏も地方行政や議会に対しての見識不足が目立ったが、自治体コードで検索できる未来カルテを使った政策立案についての提案とテレビ会議システムの活用の検討についての提案はユニークだった。

高松丸亀市商店街振興会の古川氏は議員のなり手不足の背景には過剰な議員監視とリスクの欠如があると、地方議員に寄り添う発言があった。地方議会選挙に複数投票制を導入することの提案もあった。

③ 課題討議

演題「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター： 朝日新聞論説委員 坪井ゆづる氏

事例報告者：上越市市議会議員 滝沢一成氏

鎌倉市議会議長 久坂くにえ氏

周南市市議会議長 小林雄二氏

コーディネーター 朝日新聞論説委員 坪井ゆづる氏

上越市議会議員の滝沢氏の事例発表は大いに参考になった。議員有志による「市議になりやすい環境づくり検討会」と市民意見区間会に相当する「ホワイトボードミーティング」の開催については大分市でも検討する価値があると感じた。

行政監視機能強化のための委員会審議のための資料が細かいことなどは大分市と同じだがHPで公開しているということは、資料作成の視点が変わり、より公開度が増す試みと思われる。市民意見交換会の相当する「市民の声」は年間12回開催されており、大分市と同程度だが、上越市の場合委員会ごとに関係諸団体との意見交換会を開催している。また、市民モニター500人からアンケートを、コアモニターと呼ぶ30人の市民からパブリックコメントを議会として実施している。

鎌倉市議会議長の久坂氏は女性議員の立場から、現職としての出産の経験に基づいて提言を行った。鎌倉市でも現職の出産に関する条例規定がなく会議欠席の事由、産前産後休暇、会議終了時間の明確化など、多様なバックグラウンドを持つことへの配慮の欠如について言及があり、現在、運動中であるとのことだった。

行政監視機能については予算原案に対する減額修正をしたことがあるとのことなので調査してみたい。

周南市議会議長の小林氏は自治体合併に伴う議員報酬、定数問題で市民から議会解散請

求が出され、住民投票の結果を経て議会解散となり定数が半減した経験について事例発表した。

また、議会基本条例の制定後の形骸化と、かえって議会活動の足かせになっていることへの疑問を呈した。

行政監視機能については所管事務調査の徹底を図るとともに、指定管理者委託対象施設73施設については、複数常任委員会が合同で調査に基づく審査をしているとのこと。その内訳は企画総務所管が37施設、教育福祉所管が21、環境建設所管が14となっているとのことだが、どの施設がどの委員会の合同審査になっているかという具体的な事例は発表されなかった。

事例発表のまとめとしてコーディネーターから

- ①行政監視機能の向上（栗山町議会基本条例第6条）
- ②次世代を見据えた議論、政策立案（未来カルテ）
- ③データに基づく議論
- ④多様性の確保（女性・若者議員割合の拡大）
- ⑤96条一項二項
- ⑥労働法制の検討
- ⑦情報公開の徹底



の7項目が挙げられた。

幕末の激動期を駆け抜けた坂本龍馬の誕生した高知市での開催であり、現在の議会の諸問題解決のために勇気をもって変革に突き進んでいこう！という機運が伝わってきた研究フォーラムであった。議員のなり手不足や処遇の問題、女性議員特有の課題など様々な課題や問題がある中、知恵を絞って前に進もうと苦勞されている各地の議員の皆さんの熱意に敬意を表したい。


日本全国多くの議員の方が、思いを同じくして改革へ向けて声を上げ行動を積み重ね続けなければきっと答えが見いだせるものと信じたい。

以上

支 出 調 書

支出番号	第 35 号	会派代表者	経理責任者
令和 元年 11月 29日 起票			
支出科目	その他の経費		
支出額	¥1,963 —		
支出内容	11月分燃料費として(井手口議員)		
支出先	辛島石油販売		

領収書等貼付欄



領収書 印 紙

242669

明野SS
TEL 097-520-1366
辛島石油販売
大分県大分市猪野1575-2
TEL 097-520-1366

売上 2019年11月11日
08:11

イデゲチ ヲウイ 様
〒872-0017 17-242669-00000-5678

出光ゼアス P-4(内)
51.00L 8154.0 7854円

合計 7,854円
(内、消費税等(10.00%) 714円)

釣銭 1万円: 2,146円
8千円: 146円

7501005037044611-00000-00
伝No: 10029 担当:0008
釣銭機処理No: 0282

領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。

令和 元年 11月 29日

会派代表者 殿

会派名 おおいた民主クラブ

氏名 井手口 良一



燃料費計算書

(令和 元年 11月分)

月 日	燃料費 (円)	支出先
11月11日	7,854	辛島石油販売
計	7,854	
控除すべき金額		(②の控除理由)
小計 (①-②)	7,854	
請求額 (③×25%)	1,963	

※ 領収書 (カード利用の場合は納品書) は裏面に貼付してください。

※ 領収書 (カード利用の場合は納品書) は車番、給油年月日、金額が記載されていること。

支 出 調 書

支出番号	第 36 号	会派代表者	経理責任者
令和 元年 11月 29日 起票			
支出科目	人件費		
支出額	¥8,560 —		
支出内容	補助職員 11月分賃金として		
支出先	補助職員		

領収書等貼付欄

領 収 証 No. _____

おおひら民主クラブ様

金額									
				¥	8	5	6	0	

但 11月分補助職員賃金として
 元年 11月 29日 上記正に領収いたしました

内 訳

税抜金額 _____

消費税額(%) _____

大分県

GR1517

領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。

関連資料は支出番号第 3 号に
添付済み

11月勤務時間計算表

氏名 

時給	平日	¥1,000
	休日	
交通費	往復	¥780

日	曜日	始業時刻	終業時刻	休憩時間	実働時間	時給	日給	交通費	小計	備考
1日	金									
2日	土									
3日	日									
4日	月									
5日	火									
6日	水									
7日	木									
8日	金									
9日	土									
10日	日									
11日	月									
12日	火									
13日	水									
14日	木									
15日	金	9:00	13:00	0:00	4:00	1,000	4,000	780	4,780	
16日	土									
17日	日									
18日	月									
19日	火									
20日	水									
21日	木									
22日	金									
23日	土									
24日	日									
25日	月	9:00	12:00	0:00	3:00	1,000	3,000	780	3,780	
26日	火									
27日	水									
28日	木									
29日	金									
30日	土									
—	—									

11月分給与明細

実働時間	7時間 00分
給与	7,000
交通費	1,560
支給額合計	¥8,560

代表者 印	経理責任者 印
